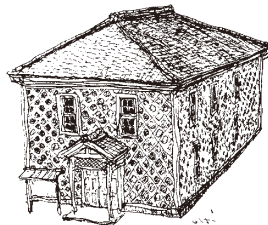


演説館



福澤先生とその門下生たちは、西洋のスピーチ、デベートを研究し、わが国の「演説」を創始しました。三田演説館は、明治8年に開館した日本最初の演説会堂です。

● 商学部長

さかきばらけんご
榊原研互

「分かる」楽しみを広げよう

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。慶應義塾の一員となられた皆さんを、教職員一同、心から歓迎します。

皆さんは、これからそれぞれの専門分野で学びを深めていくこととなりますが、大学の重要な使命が、学問による世の中への貢献にあることは、あらためて言うまでもありません。

慶應義塾は福澤諭吉先生の説く「実学の精神」を研究・教育の理念の一つとして掲げています。実学の精神とは、世の中ですぐに役に立つ実践的な知識を身につけるということではありません。福澤先生が「実学」に「サイヤンス」とルビを振ったことからわかるように、実学とは常識や社会通念に囚われることなく、客観的な視点で物事の道理を究明し、そこで得た知見を世の中のために広く役立てることを意味しています。

常識とはしばしば正しい知識とみなされがちですが、決してそんなことはありません。天動説の常識が地動説によって取って代えられ、時間と空間についてのそれまでの常識がアインシュタインの理論によって打ち碎かれたように、どんなに正しく

見える知識でもいつかは覆される運命にあります。知識の発展とは、以前の常識が新たな常識によって塗り替えられていく、その繰り返しであり、その発展に終わりはありません。

ですから大学に身を置く者は、それが教員であれ学生であれ、批判的な精神を大いに発揮して、私たちの知的地平を少しでも広げるべく努力する責務を負っています。「学問する」とはまさに、先人たちが築いてきた知の遺産を単に学ぶだけでなく、それを批判的に問い直し、発展させることだからです。

「批判」を意味する英語の critique は、ギリシア語の「分ける」「判断する」を意味するクリノー (krino) という言葉に由来すると言われています。批判するとは、わけのわからないものを分けて整理して見通しのよいものにするということです。それによって私たちの理解が深まり、世界を広げることができるのです。

皆さんには批判的精神を大いに発揮して、「分かる」楽しみを広げてほしいと願っています。